

2026年6月16日  
日 本 銀 行

## 長期国債の買入れ計画について

日本銀行は、本日開催された政策委員会・金融政策決定会合において、国債市場の動向や機能度を点検したうえで、今後の国債買入れのあり方について検討した。

長期金利は金融市場において形成されることが基本であり、日本銀行による長期国債の買入れは、国債市場の安定に配慮するための柔軟性を確保しつつ、予見可能な形で行っていくことが適切である。

こうした考え方のもと、市場機能の改善や市場の安定確保といった観点から、長期国債の買入れについて、以下のとおり運営することを決定した（賛成7反対1）<sup>(注)</sup>。

1. 月間の長期国債の買入れ予定額を、2027年1～3月までは原則として毎四半期2,000億円程度ずつ減額し、2027年4月以降は月間2兆円程度の買入れを行う（詳細は、別紙）。
2. 長期金利が急激に上昇する場合には、毎月の買入れ予定額にかかわらず、機動的に、買入れ額の増額や指値オペ、共通担保資金供給オペなどを実施する。
3. 今後、長期国債の買入れ計画の中間評価は実施しないが、国債買入れの基本的な考え方や国債市場の動向等を踏まえ、必要な場合には、金融政策決定会合において、買入れのペースを見直すこともありうる。

以 上

---

<sup>(注)</sup> 賛成：氷見野委員、内田委員、中川委員、高田委員、小枝委員、増委員、浅田委員。反対：田村委員。欠席：植田委員。田村委員は、長期金利の形成は市場と市場参加者に委ねるべきであるとして、2028年1～3月まで月間の買入れ予定額を原則として毎四半期2,000億円程度ずつ減額する議案を提出し、反対多数で否決された。

## 月間の長期国債の買入れ予定額

	月間の長期国債の買入れ予定額
2026年4～6月	2.7兆円程度
2026年7～9月	2.5兆円程度
2026年10～12月	2.3兆円程度
2027年1～3月	2.1兆円程度
2027年4月以降	2兆円程度

(注) 残存期間別等の1回当たりのオファー金額や日程等の予定については、従来同様、「長期国債買入れ(利回り・価格入札方式)の四半期予定」で公表する。

## (参考) 日本銀行の国債保有残高の見通し

	国債保有残高	2024年6月末比 (減額前比の減少率)
2027年3月末	480兆円程度	▲17%程度
2028年3月末	430～440兆円程度	▲24～25%程度
2029年3月末	390～400兆円程度	▲31～32%程度
2030年3月末	350～370兆円程度	▲36～39%程度

(注1) 仮に月間2兆円程度の買入れを維持した場合の試算値。額面ベース。

(注2) 残存期間別等の買入れ額の構成比率については、現状と概ね同程度になると仮定。